

オーナーの皆さまへ

ずっと一緒にいたいから
愛情一滴
ひとしずく



zoetis

伝染病

って怖い!



猫カリシウイルス感染症

この病気にかかる猫は非常に多く、風邪によく似たくしゃみ、鼻水、軽度の発熱などの症状を起こします。

口腔内に潰瘍、水疱ができるのが特徴で、稀に急性結膜炎、鼻炎、一過性の発熱が見られる他、関節と筋肉の痛みから跛行（うまく歩けない）になることもあります。

また、子猫の場合は他の病気との合併症により症状が悪化し、死亡することもあります。

キャリアー（ウイルスを体内に持っている猫）から感染します。

猫ウイルス性鼻気管炎

風邪によく似たくしゃみ、鼻水、軽度の発熱などの症状の他、角膜炎や結膜炎が見られ、重症になると死亡することもあります。

キャリアーからの感染の他、空気中の微粒子、食器、寝具などからも感染します。



猫汎白血球減少症

子猫では食欲・元気消失、発熱、嘔吐、下痢などの症状が見られることもある**死亡率の高い病気**です。

妊娠中の母親が感染すると流産、異常産を起こすこともあります。

経過が速く、治療が困難なため、ワクチンによる予防が有効です。



●これら主要3種ウイルス感染症には、混合生ワクチンによる予防が有効です。

ワクチン接種を
しましょう！



母親からもらった免疫が減少してくると、子猫が伝染病にかかる危険性が高まります。伝染病は、時には大切な愛猫の命さえもおびやかす恐ろしい病気です。あなたの愛猫を恐ろしい伝染病から守るために愛情一滴。「ワクチン接種による病気の予防」をしましょう。



確実な予防効果を得るためには、3～4週間隔で2回ワクチン接種をしましょう。



ワクチンは伝染病予防のためのものですが、100%病気を予防できるものではありません。しかし、ワクチンを接種した猫は、病気になってしまったとしても、ワクチン接種をしていない猫と比べると、その症状ははるかに軽くすみます。

その他ワクチンのある病気

猫免疫不全ウイルス感染症(猫エイズ)

多くは、猫どうしのケンカのかみ傷から感染。初期には発熱、リンパ節の腫れが見られ、その後、長い無症状キャリア期を経て、“猫免疫不全症候群”と呼ばれる時期に入ります。口内炎、慢性の下痢など、抵抗力の低下が招く様々な症状が現れ、次第にやせ衰えて死に至ります。

クラミジア感染症

主に感染猫との接触でうつります。結膜炎が代表的な症状ですが、くしゃみ・鼻水・咳や肺炎を起こすことも。重症化すると死亡することもあります。

猫白血病ウイルス感染症

唾液中にウイルスが多く含まれ、グルーミングやケンカなどで感染。感染初期に、発熱や元気喪失などの一過性の症状が見られますが、すぐに回復し、その後、数カ月～数年を経て発症。著しい免疫力の低下、貧血、白血病、腫瘍など、様々な病気を引き起こします。発症すると、多くは死に至ります。

ワクチンのない病気

猫伝染性腹膜炎(猫コロナウイルス感染症)

感染猫の排泄物や、唾液・鼻水などの分泌物から感染。感染してもほとんどの猫は発症しませんが、いったん発症すると、多くは死に至ります。

症状は、お腹に大量の腹水がたまる“ウェット”型が多いですが、中枢神経や目に異常をきたす“ドライ”型もあります。

ちゃんのワクチン接種

年 月 日

年 月 日



子猫には(9週齢以上)3~4週間隔で2回



成猫には定期的なワクチン接種をお奨めします。



注意

- ワクチン接種後、免疫力がつくのに若干の日数を要します。それまではストレスを与えたり、他の猫との接触は避けて下さい。
- ワクチン接種後、ごくまれに一過性の副作用がでることがあります。その場合は獣医師にご相談ください。

● ワクチン接種については、当院にご相談下さい。

ゾエティス・ジャパン株式会社